「水と流域・地球市民対話プロジェクト」
地域対話フォーラム 2023 in Aichi

開会挨拶　飯吉厚夫
（「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」推進委員長、
中部 ESD 拠点代表、中部大学理事長・総長）

皆さま、おはようございます。本日は、「水と流域・地球市民対話プロジェクト」のキックオフとなる「地域対話フォーラム 2023 in Aichi」にご参加いただきましてありがとうございます。主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。

このプロジェクトは 2025 年の大阪・関西万博をめざして、2005 年の愛・地球博の理念を継承発展させる活動の一つとしてスタートしました。イベント学会が提唱し、地球産業文化研究所*（いずれも共催団体）*から経済的支援をいただいておりまして、推進委員会と実行委員会を立ち上げて活動を進めております。

フォーラムのテーマは、「水と流域」であります。サステナビリティの根源である「水」と、私たちの暮らしの関係を、「流域」の視点から見直そうという趣旨でございます。

しかし、単に環境問題の解決だけではなく、水を使った農林水産業や、イノベーティブな技術発展による地域経済の活性化。また、水と関わる文化や倫理の学びも大きなテーマだと考えています。

折しも、ロシアのウクライナへの侵略が国際社会の大きな不安となっていますが、それぞれの民族や国民、市民が、異なる自然環境の中で育ち、かけがえのない独自の文化を育んできたという現実にもう一度目を向けなければなりません。そのためにも、私たち自身がまず、自分の足元を見つめ、流域の水と風土でかたち作られた自己の存在を理解することが大切です。
そして、水によって生かされている人間の普遍性と、自然・文化の特殊性の両方の側面を理解し、異なる民族や人々に対して想像力と共感力を持って接することにより、平和の構築にもつながるものだと信じております。

中部大学は、2005 年の愛知万博以降、ESD（持続可能な開発のための教育）の活動を開始し、2007 年には、名古屋大学総長と私が共同代表となり、「中部 ESD 拠点」を立ち上げ、国連に ESD 地域拠点として認定されました。それから

15 年間、さまざまな団体と連携して活動を続けてきました。

現在では、世界 180 地域にネットワークが広がる国連「ESD 地域拠点」ですが、私たちの「地域」、つまり活動対象地は、当初から「伊勢・三河湾流域圏」と設定し、人の手による線引きではない自然条件による暮らしの場で物事を考えようという取組を行ってきました。

このような「流域圏」あるいは「生命地域（英語で Bio-region といいますが）」で持続可能な社会づくりを考える」というチャレンジは国際的にも評価されています。

本日は、水にまつわる様々な研究や活動に取り組んでおられる多くの皆様が一堂に会し、全国、そして世界に、「（流域で物事を考える）流域思考」を提唱していく本プロジェクトの記念すべき第一歩となります。

皆さまの活動のテーマやお立場、関心事やアプローチもさまざまでありますから、ともすると、「違和感」ばかりを感じる場となるかもしれません。しかし、SDGs の「パートナーシップ」とは、まさにそうした違和感や矛盾、異なる価値観の対立を超えたところで実現する「協働」であり、まさに「地球市民の連携による未来づくり」だと考えております。

「いのちをつなぐ水と流域」をテーマとした本フォーラムの一日が、ローカル、そしてグローバルなパートナーシップを生み出すきっかけとなることを祈念して、私からの挨拶にかえさせていただきます。
本日はよろしくお願いいたします。

以上